

【評議員会・理事会 2024.5.24 第1号議案資料】

令和5年度
事業報告書（案）

学校法人 高野山学園

<目次>

I. 法人の概要

1. 法人の目的
2. 設置する学校の所在地等
3. 設置する学校・学部・学科等
4. 入学定員および学生数
 - (1) 高野山大学
 - (2) 高野山高等学校
 - (3) 高野山こども園
5. 役員・教職員数
 - (1) 役員数
 - (2) 教職員数

II. 事業の概要

1. 法人本部の事業報告
2. 高野山大学の事業報告
 - ① 教育
 - ② 学生支援

- ③ 研究
- ④ 国際連携・地域連携・地域貢献
- ⑤ 施設設備整備計画
- ⑥ 財務戦略
- ⑦ 組織・運営体制

3. 高野山高等学校の事業報告

- ① 高校経営
- ② 教育活動
- ③ 生徒募集活動
- ④ 施設・設備の整備事業

4. 高野山こども園の事業報告

1. 法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。（『学校法人高野山学園寄附行為』第3条）

2. 設置する学校等の所在地等

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園 法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385番地 TEL：0736-56-2922	本部長：山口 文章
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385番地 TEL：0736-56-2921（代）	学長：添田 隆昭
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山212番地 TEL：0736-56-2204（代）	校長：橋本 真人
高野山こども園 ※受託事業 令和5年度より移転	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山26-2番地 TEL：0736-56-2320	園長：立葉 了禅

3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部・学科等		
高野山大学	文学部		密教学科・人間学科・教育学科
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）
別科			
高野山高等学校	全日制課程 普通科		
	全日制課程 宗教科		
	広域通信制課程		
高野山こども園			

4. 入学定員及び学生数（令和5年5月1日現在）

(1) 高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	30	32	120	176
	人間学科※	0	0	20	15
	教育学科	50	7	150	35
	計	80	39	290	226
大学院	密教学専攻	36	11	75	138
	修士課程	13	4	26	11
	博士後期課程	3	3	9	6
	修士課程（通信教育課程）	20	4	40	121
	仏教学専攻	16	0	35	4
	修士課程	13	0	26	2
	博士後期課程	3	0	9	2
	計	52	11	110	142
	別科	30	0	60	0

※人間学科は募集停止

(2) 高野山高等学校

○全日制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	120	27	360	100
宗教科	30	4	90	17
計	150	31	450	117

○通信教育課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	300	4	900	27

(3) 高野山こども園

収容定員	園児数
82	42

5. 役員・教職員数（令和5年5月1日現在）

(1) 役員数

役職名	氏名	現員	定数
理事長	今川 泰伸	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

(2) 教職員数

① 法人本部

区分	専任職員	非常勤職員
事務局	4	1

② 高野山大学

区分	学長	教授	准教授	専任講師	非常勤講師
教育職員	1	13	15	4	105

区分	専任職員 (契約含む)	非常勤職員
事務職員	24	11

③ 高野山高等学校

区分	校長	教頭	専任教員	非常勤教員
教育職員	1	2	12	12

区分	専任職員	非常勤職員
事務職員	10	0

④ 高野山こども園

区分	園長	副園長	専任教員	出向教員	非常勤教員
教育職員	1	1	6	1	7

区分	専任職員	非常勤職員
事務職員	1	0

II. 事業の概要

1. 法人本部の事業報告

項目	中期目標		2023年度			結果	来期以降の取組み
	目標	目標の説明	計画	詳細	目標		
ガバナンス強化	常務理事会・理事会・評議員会の役割整理・機能拡充	経営改善計画を実現するための役割を明確にする	経営改善計画検討委員会の設置	改善すべき問題ごとにチームを設置する「プロジェクトチーム（委員会）方式」や「第三者（専門家）委員会方式」など	年度内設置	議案を絞って臨時理事会を複数回開催、また案件によりメンバーを選定して会議を実施	学内選定メンバーで検討⇒臨時理事会開催で意思決定をスピーディーに行う
	経営状態の情報共有	経営陣と全教職員で自法人の状況、問題点を共有する	情報共有の具体的方法の決定	起こり得る将来危機を回避する上で、現場に存在する問題点を解決し、良い点を強化するには、現場の教職員の努力が必要不可欠であるため、経営状況を共有し、全員が危機感を持って改善活動に邁進する環境をつくる	年2回の全体説明会を実施	全体説明会実施 ・経営情報の共有 ・大学職員の新給与体系について	継続実施
組織力向上	教職員のスキルアップ・環境改善	FD・SD委員会と連携して計画的に外部研修を開催する	外部講師によるSD研修を実施する	特に職員研修のスキルアップのために外部講師による研修を実施する	年1回	外部講師を招いて「業務改善研修」実施	継続実施 外部研修への派遣を検討
	組織（業務）効率化	人的資源の有効活用と事務組織機能強化	各課業務のアウトソーシング検討	各課の現状業務を見直し、アウトソーシング化を図り、職員をルーティン業務から改善活動業務に比重を変える	2023年度中	業務アプリ作成システムのテスト実施	各部門で自動化・軽量化したい業務の抽出、新規業務アプリ作成の検討

2. 高野山大学の事業報告

①教育

項目		中期目標		2023年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
1	教育の質的保証の充実	教育の質的保証システムの効果的運用	PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることにより、新設の教育学科を含め、全学において教育の質的保証システムの効果的運用を図る	①学部・学科における教育の質的保証の徹底 ②FD/SD研修・学生アンケートの実施と点検	①大学基準協会の大学評価において指摘のあった事項について、改善の実質化を推進する ②FD/SD研修と学生アンケートの取り組み実績および計画を確認、実施後の点検作業を行い、改善点を取りまとめる	①大学評価委員会が月ごとの各種委員会をチェックする ②FD/SD研修及び学生アンケートの実施と点検及び改善点の取りまとめを年度内に実施する	①大学評価委員会による各種委員会のチェックの実施 ②学生アンケート実施、集計済。集計結果について各担当教員から改善点を提出させ、取りまとめた	②カリキュラム・ポリシーに基づいたシラバスになっているかを確認し、学生の授業アンケートを中間・期末の2回実施し、結果を基にした授業改善について教務委員会に報告する。また、FD/SD研修をそれぞれ年に2回開催する
2	教育力の強化	密教学科の充実	密教学科の教育のさらなる充実を図る	①密教文化コースの運営 ②留学生受け入れプログラム（日本文化コース）の充実 ③教員の適切な配置を含む教育内容の見直し	①新設の密教文化コースの運営を滞りなく実施し、2024年度に向けての課題を調査、検討、推進する ②留学生受け入れプログラム（日本文化コース）の運用と推進 ③教員の定年退職者教員を考慮した人事計画の作成と新規教員公募に向けた準備	①学科主任・事務部署で課題の検討を行い、各種委員会で調整する ②問題点の洗い出しを行う ③年度内に教育内容に基づいた人事計画の作成	①実施済み ②留学生受け入れプログラム推進の結果、2名の留学生在が入学した ③人事計画に基づき定年退職者1名、3名を新規採用した	①学科主任・事務部署で課題の検討を行い、各種委員会で調整する ②問題点の洗い出しを行う

項目		中期目標		2023年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
3	教育力の強化	教育学科の新設	2021年度に教育学科を新設し、本学の教育に小学校・幼稚園教員養成課程及び保育士養成課程を加えて、教育内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ①本校および短期大学や高等学校との教育連携に向けた準備と実行 ②教育学科における学修成果の検証を継続。 ③地域社会と連携した教育の充実。 ④入学生の確保（含む編入生確保） ⑤英語教育の充実 ⑥留学生および社会人の受け入れ体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ①短期大学や高等学校との教育連携に向けて継続して検討する（含む高大連携） ②学修成果の検証方法の検討と実施 ③地域体験等による人間力の育成の充実と可視化 ④募集活動の強化と入学生の増加 ⑤学校種を超えた英語教育の充実を図る ⑥入学生確保のため、留学生および社会人を受け入れる体制を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ①短期大学や高等学校（含む高大連携）との連携の実現 ②検証結果の報告 ③学生アンケート等で人間力の具体的な内容を可視化 ④入学定員50名の確保（含む編入生確保） ⑤中・高教員免許（英語）の課程の運営整備 ⑥留学生複数名の受け入れと就学指導などの受け入れ体制の検討およびニーズ調査 	<ul style="list-style-type: none"> ①大阪千代田短期大学との教育連携会議を毎月1回行った ②未実施 ③未実施 ④入学者7名 ⑤予定通り進捗 ⑥留学生なし 留学生のニーズ調査は未完了 	<ul style="list-style-type: none"> ①大阪千代田短期大学との教育連携会議を毎月1回行う。また、暁光高等学校との教育連携会議を年2回開催する ②カリキュラムマップに基づいた資質・能力が身についているか調査方法の検討 ③人間力の要素となる基礎的な資質・能力を明確にし、それらに基づいたルーブリックを作成する ④入学定員15名の確保（含む編入生） ⑤近隣の高等学校との英語教育について、高大接続を視野に入れた連携を行う ⑥留学生のニーズ調査を行い、日本語学校を指定校とする
4		初年次教育・キャリア教育の提供	初年次教育とキャリア教育を充実させ、学生の基礎学力、コミュニケーション能力等の涵養を図る	<ul style="list-style-type: none"> ①スタディスキル、専門教育の導入、チューデントスキル等初年次教育の充実 ②適性診断の実施、キャリア教育の推進 	必修科目である導入研修の継続した実施や各界の専門家を招き将来の自分を可視化する	ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等の手法を通して学生のスキルを養う	導入研修において実施済み	ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等の手法を通して学生のスキルを養う
5		アクティブラーニングと遠隔教育のためのプログラム開発	アクティブラーニングと遠隔教育の実施に必要な教育プログラムの開発・導入を目指す	ICTを活用したアクティブラーニング・遠隔教育の手法の開発	アクティブラーニングの推進と遠隔教育方法と施設の整備	学内発信用スタジオの充実	実施済み	遠隔教育についての教職員向け研修会の開催

②学生支援

項目		中期目標		2023年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
1	修学支援の充実	修学支援の充実	学生の修学支援の充実を組織的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ①奨学金制度・授業料減免制度及び特待生制度の充実とアナウンスの徹底 ②大学院生による学生支援の充実 ③学習支援室の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種奨学金、授業料免除制度及び特待生制度の充実と学生への周知徹底（メールやホームページ、OCを活用した発信で入学前から告知） ②TA制度・PD制度の拡充 ③学生の個別学習指導等に活用、単位履修や進路について利用 	<ul style="list-style-type: none"> ①分かり易い案内用チラシや冊子の作成（具体例によるチャート図） ②TAもしくはPDの採用（新規採用1名） ③教員による積極的指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①定員充足率80%を達成し修学支援制度の継続利用が可能となった ②未実施 ③学生の自習や個別学習指導等に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ①分かり易い案内用チラシや冊子の作成（具体例によるチャート図） ②TAもしくはPDの採用（新規採用1名） ③教員による積極的指導
2		配慮を必要とする学生への学習支援の充実	配慮を必要とする学生の修学支援（学習支援・生活支援）を、教員と学務課とカウンセラーで協力しておこなう	<ul style="list-style-type: none"> ①カウンセリングの充実 ②カウンセラーとの連絡緊密化 ③障がいを持つ学生への合理的配慮体制の構築 ④教職員向け研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①②カウンセラーと、事務、授業担当教員が情報共有を図り指導を行う。カウンセラーと共に不登校学生の下宿訪問。外部医療機関（心療内科）との連携を行う ③決定体制の整備と、配慮の仕組みづくり ④心理士資格を持つ教員による教職員向け研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①②カウンセラーの増員と学生相談事務員の配置。利用者の増加、不登校・医療機関利用者の減少。対応マニュアル作成 ③決定体制の整備、仕組み構築 ④年数回の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①②密教学科及び学務課員による学生相談の実施 ③学生部協議会内に合理的配慮担当を設置した ④未実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①②不登校・医療機関利用者の把握 ③決定体制、仕組みを構築し、改善点の検討 ④教職員向け研修会年2回の開催
3	学生生活支援の充実	学生が楽しく充実して生活を送るための支援を拡充	学生の修学について生活面を含めてサポートしていく	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の生活支援について学務課の相談窓口機能を強化 ②学生アドバイザー制度、オフィスアワーの充実 ③学生がリラックスできる空間を学内に設置するための計画立案 ④学生寮の整備計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ①個人メールアドレスの付与により学生に素早い情報提供と相談しやすい環境を整備 ②学生アドバイザーと事務担当者が連携し、よりきめ細やかな対応をめざす ③アカデミック commons の整備（学生談話室の現状把握と立案） ④学生寮における問題箇所の洗い出しと改善に向けた計画書の立案、及び改善のための予算確保に向けた取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ①学生相談事務員の配置と入室しやすいオフィス整備 ②学生への利用周知 ③学生談話室改善計画の立案 ④女子寮備品等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ①全学生へのメールアドレス付与及び情報提供等への利用 ②学生への利用周知 ③④未実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①学生相談室の利用状況を把握し利用しやすいオフィスの整備 ②学生への利用周知 ④女子寮備品等の整備

項目		中期目標		2023年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
4	就職支援の充実	就職支援の充実	キャリア教育、職業感の養成、就職支援をおこなう	①個別就職指導と就職案内の実施 ②インターンシップ、キャリアアップ講座の実施 ③求人情報の提供 ④キャリア支援室の充実 (河内長野キャンパスとの連携)	①コロナ禍の中、就職活動のあり方が大きく変化しており、リクルートキャリアのweb新卒総括セミナーなど、状況変化に対応した情報提供をメールを利用して周知する。また進路調査票を基に個別対応で求人票等の提供を行う ②インターンシップの縮小、参加する学生の感染防止意識から参加は難しい状況にある なお1回生入学時にはSPI性格検査と能力検査を実施して、早くから職業適性、自己診断の就職に向けた意識を高める ③寺院・公務員・一般企業などの業種別に、希望する学生には企業の求人情報を提供する ④キャリア支援室を新設し、専門の教員に依頼 学生に対して直接指導を行っている (河内長野キャンパスとの連携を検討)	①②③④第2・第4木曜にキャリア支援担当を常駐。また、ゼミ担当教員が進路について、学生に対し、このエリアの積極的活用を促す	①②③④キャリア支援室に、第2・第4木曜に支援担当者を常駐させ、学生に対し支援室の積極的な活用を指導した	①②③④火曜4限にキャリア支援担当を常駐。また、ゼミ担当教員が進路について、学生に対し、このエリアの積極的活用を促す
5	退学者・休学者の防止対策	退学者・休学者の人数を減らす	教員、学務課、カウンセラーが協力して、退学者・休学者を一人でも減らすように努力する	①オリエンテーション、初年度教育の充実 ②学生アドバイザー制度の充実 ③単位取得不足の学生には、後期科目の追加や指導等を行う。 ④保護者懇談等、学資出資者との連携を図る。 ⑤学費減免制度等	③授業欠席者の情報提供を教員から受け、学生の呼び出し、聞き取りを行い、状況に応じて学習支援室にて単位履修など修学支援を行う ④学生の状況を保護者に連絡し、保護者懇談会への参加を促し、早期に対策する ⑤コロナ禍の中、経済的困窮者に対し、公的補助の案内や手続き・修学支援を行う	②学生への利用周知 1-③に同じ 退学者数、前年度比3割減	①②③④⑤学生の状況により個別に対応 令和5年度の退学者数は9名(除く通信)前年度退学者数が16名(除く通信)であったため前年比44%減少した	退学者数、前年度比3割減

③研究

項目		中期目標		2023年目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
1	研究成果の国内外への発信	研究の高度化の推進	個人研究、グループ研究を組織的に支援する体制の整備を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①個人研究を支援するための制度の検討と実施 ②研究所を中心にグループ研究を推進する体制を再構成 ③研究ブランドの育成、2019年度に終了した私立大学研究ブランディング事業の継続発展 	<ul style="list-style-type: none"> ①個人研究費や研究環境を見直すと共に、科研費申請の推進及び各種助成制度の周知を徹底する ②研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、密教文献英訳推進会、高野山聖教調査研究に加え、補助金対策の一環で図書館から、ゴルドン関係文書調査研究、龍光院文書調査研究の移行を実施 ③は下記の研究成果の社会還元 	<ul style="list-style-type: none"> ①⑥財務-2帰属収支改善-外部資金増額-③科研費受給増を参照 ②毎年の研究所紀要等への成果公表 	<ul style="list-style-type: none"> ②予定通り、研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、密教文献英訳推進会、高野山聖教調査研究、ゴルドン関係文書調査研究、龍光院文書調査研究の7事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ②研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、密教文献英訳推進会、高野山聖教調査研究、ゴルドン関係文書調査研究、龍光院文書調査研究の7事業に加えて、本山から移管の戦時資料の整理と高野山北室院古文書調査を実施する
2		大学評価の向上	研究成果を国内外に発信し、大学評価の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①学術論文投稿数の増加対策の検討・実施 ②高野山アーカイブ・古絵図であるく高野山の継続・展開 ③出版事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①「研究の高度化の推進」の項目参照 ②は下記の3研究成果の社会還元②を参照 ③高野山大学論叢、教育学科紀要（綜芸）、密教文化研究所紀要・大学院紀要・密教会報、及び密教文化の刊行 	<ul style="list-style-type: none"> 紀要・論叢等の年1回発行 	<ul style="list-style-type: none"> ③密教文化研究所紀要・密教文化研究所紀要別冊を刊行。また、教育学科紀要を年1回発行した 	<ul style="list-style-type: none"> ③高野山大学論叢、教育学科紀要（綜芸）、密教文化研究所紀要・大学院紀要・密教会報、及び密教文化の刊行
3	研究成果の社会還元	産官学連携における研究貢献	宗門・地方自治体・企業・他大学の要求に応える研究を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①高野山ブランドの創出・展開 ②博学連携、高野山内古文書・聖教調査の実施 ③公開講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①東大先端研等の連携による2回の高野山会議開催を基に新たな高野山の魅力を発信する ②博学連携や高野山内古文書・聖教調査結果を高野山アーカイブに反映させ公開資料充実を図る ③コロナ禍における公開講座のあり方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ①高野山会議の継続的な実施および実績報告 ②高野山アーカイブ・古絵図で歩く高野山の公開資料数の増加 ③東京での連続講座およびフジキン記念講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①高野山会議の開催 ②博学連携や高野山内古文書・聖教調査結果を高野山アーカイブに反映させ公開資料の充実を図った ③東京別院にてフジキン記念講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①高野山会議の継続的な実施および実績報告 ②博学連携や高野山内古文書・聖教調査結果をWeb公開し、さらなる公開資料の充実を図る ③フジキン記念公開講座を7月に大阪開催する

④国際連携・地域連携・地域貢献

項目		中期目標		2023年目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
1	地域社会の発展への寄与	地域社会からの信頼の獲得	地域コミュニティの中核的な存在になることを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①自治体行事への積極的な参加 和歌山県警の実施する「子供見守りプロジェクト」に参加 ②地図サイト「古絵図であるく高野山」の充実 ③災害時の地域との連携を推進 ④河内長野市・寺が池公園プレイパーク企画に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①自治体行事（青葉まつり、明神祭など）への参加を学生に促す 小学生・中学生の帰宅時間に各ポイントにて声掛けと見守りを実施 ②Googleマップを利用した「古絵図であるく高野山」の充実 ③⑦組織・運営体制のページの自然災害・健康被害の危機管理の項目を参照 ④寺が池公園のプレイパーク設置企画に構想段階から参加し、市民に良質の施設を提供できるように検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ①行事への参加人数延べ20人 ボランティアへの参加学生の増加 ③避難所としての機能と体制を具体化する 	<ul style="list-style-type: none"> ①掲示等により、自治体行事（青葉まつり、明神祭など）への参加を学生に促した 	<ul style="list-style-type: none"> ①行事への参加人数延べ20人、ボランティアへの参加学生の増加
2	産官学民連携による社会的課題対応	研究成果の社会還元	地域社会・産業・行政との連携の中で社会的な課題の解決を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①自治体等との包括連携の推進 ②高野山学の発展的展開 ③産官学民連携事業の推進 ④河内長野市および市教育委員会との連携推進 ⑤高野山大学特任マイスター制度の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①高野町・金剛峯寺・東大先端研・和歌山県等との連携による高野山会議の開催に向けた取組み ②金剛峯寺・高野町・高野町教育委員会との協力開講である生涯学習講座（高野山学）への施設貸出及び講師派遣 ③難波市民学習センターでの高野山大学官学連携講座の開催 ④河内長野市・教育委員会と継続的な検討会議を設置する予定 ⑤特任マイスター制度の運用と充実 	<ul style="list-style-type: none"> フジキン講演会1回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・R5.10.7高野山東京別院において、フジキン講演会を開催 ・令和5年度高野山会議の開催（R5.4～11 全8回） ・難波市民学習センターにて官学連携講座開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③継続実施 ④河内長野市との連携会議を2回開催する ⑤マイスターへの聞き取りを実施し、課題を整理する

項目		中期目標		2023年目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
3	社会貢献活動	大学の社会的責任	寺院住職のリカレント教育 大学における研究成果の社会還元や弘法大師の思想に基づく人権思想の普及を目指す 河内長野市での地域活性化活動	①寺院住職リカレントプログラムの開講 ②公開講座の開催 ③大阪万博への参加準備 ④人権教育および人権啓発活動の推進 ⑤施設設備の貸し出し ⑥河内長野市バス停前空き地の整備 ⑦キャンパス周辺での地区自治会との連携 ⑧河内長野市市民大学（くろまる塾）や、市内公民館での講座開催	①特別公開講座（伝授・講演等）の実施により、リカレント教育を図る ②上記2「産官学民連携による社会的課題対応」の項目を参照 ③大阪万博に向けてのパビリオンの内容の検討 ④金剛峯寺の人権局が開催する人権教育講座へ参加し、啓発活動への理解を深める また学内での人権に関する講演会や研究会を開催する ⑤行事等への施設の積極的な貸出を実施する ⑥地域体験活動を通じて、バス停前市有地を花壇整備 ⑦河内長野キャンパスの小山田地区と連携して活性化のための活動を行う	①特別公開講座は年2回の開催 ④年数回の講演会と研究会・研修会の開催	①安流伝授会を3回開催した ⑥地域体験活動を通じて、河内長野キャンパス下のバス停前市有地の花壇を継続して整備 ⑦学生の地域体験活動において、小山田地区と連携した活動を実施した	①特別公開講座を3回開催する ②講演会と研究会・研修会を2回開催する ⑤学生による定期的な活動を報告する ⑥具体的な活動のあり方についての会議を2回開催する
4	国際社会で活躍できる人材の育成	グローバル人材の育成	国際社会で活躍することができる人材を育成する あわせて、日本文化を海外で発信する海外開教教師等の人材育成を目指す	①英語プログラムの強化 ②留学生の就職支援の強化 ③海外研修プログラムの整備拡充	①理解度把握システムを活用し、総合的に英語能力を高める ②留学生に特化した日本語夏期講習を開講し日本語能力試験JLPTの取得を促進する ③高野山真言宗米国別院での語学研修や国際布教を実施する	①到達度を可視化し、効率的にレベルアップを図る ②大学院生はN1、学部生はN2の取得を目指す ③派遣学生年1名	①教育学科学生がアメリカサンゼルスに海外留学体験をして英語力の向上に努めた ②留学生に特化した日本語夏期講習を開講し日本語能力試験JLPTの取得を促進した	①さらなる英語力向上に努める ②大学院生はN1、学部生はN2の取得を目指す

⑤施設設備整備計画

項目		中期目標		2023年目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
1	施設設備の修繕計画の策定	修繕計画の策定	時期・費用の明確化	①老朽化設備機器の更新 ②修繕計画の策定および予算措置の実現	・水処理やボイラーなど老朽化した設備の更新計画策定 ・上記に応じた修繕年次計画の作成と実行	2025年までの更新計画書作成の完了	2025年度までの更新計画書の作成完了	計画書に基づき、見積書の徴求と予算化を行い更新及び修繕に着手する

⑥財務戦略

項目	中期目標		2023年目標			結果	来期以降の取り組み	
	目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標			
1	帰属収支改善	学生生徒納付金の安定的確保	2024年度までに定員充足100%を達成し、定員増を検討する	密教学科の新入学生定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高野山高等学校と連携…5名以上 ・全国寺院への資料郵送、架電、訪問などでのアプローチ…20名以上 ・密教文化コースでの入学生獲得…25名以上 	①大学評価委員会が月ごとの各種委員会をチェックする ②FD/SD研修及び学生アンケートの実施と点検及び改善点の取りまとめを年度内に実施する	新入生30名 社会人編入25名（密教文化コース）	新入生30名 社会人編入55名（密教文化コース）
				教育学科の新入学生定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高野山高等学校と連携 3名以上 ・関連校の暁光高等学校と連携 8名以上、留学生2名以上を含む入学定員50名の確保 ・編入生 5名以上の確保 ・高校訪問・SNSおよび塾訪問等により実現する ・また宗務支所等の本宗寺院への訪問を実施し、理解・協力を求める 	①学科主任・事務部署で課題の検討を行い、各種委員会で調整する ②問題点の洗い出しを行う ③年度内に教育内容に基づいた人事計画の作成		
2	外部資金増額	①特別寄付・一般寄付の増額	寄付金関係事務の固定化、および募集の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金募集リーフレットを年2回（春・秋の学費請求時+学報発送時）に配布、広域に寄付金を募る 	1,500万円 *2021(R3)年度比100%（宗団寄付を除く）	1,216万円 （2021(R3)年度比約80.1%）	リーフレット配布の継続および顕彰制度見直し	
		②補助金増額	補助金対象項目の見直しと改善計画の策定・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金担当者内で改善項目を抽出し優先順位を設定、受給項目および受給額を増やす取り組みを続ける ・事業の所属移管・整理等を行い、補助金申請の取りこぼしを減らす 	特別補助の増額	大阪千代田短期大学との連携により補助金580万円を獲得した	今年度も特別補助の増額に努める	
		③科研費受給増	教職員への科研費説明会の実施	科研費説明会を開催し、採択経験をもつ教員に計画調書の書き方やポイントなどについて教授してもらい、各教員に積極的な応募を促す	教職員説明会開催 申請100%達成 新規1名採択	説明会未実施 申請率25%（申請数8人/教員数33人） 新規1名採択	教職員説明会開催 申請50%達成	

項目		中期目標		2023年目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
2	帰属収支改善	外部資金増額	④資産運用	大学定期預金の見直し 特定資産の運用検討	・金融機関と交渉し極力高い利率で預けられないか検討する ・低リスク商品での短中期運用の検討	-	特定資産の内 2億4000万を4.13% 1億143万を1.5% 1億を1.04%で運用開始	2023年度中に運用可能な特定資産の大部分は運用を始めたので、今後は良い商品があれば随時検討する
3		個人研究費の適正化	個人研究費規程強化・研究費の適正化	新規規程運用開始	大学の財務状況や補助金・科研費との関連を各教員に説明、理解を求めて執行する	-	財務状況についての説明会は開催されたが、補助金・科研費に関する説明は未実施	個人研究費の管理方法について検討を開始する
4	支出額の削減	経費の見直し	人件費及び運営経費の見直し	削減項目の洗い出し	大学の財務状況を教職員が共有し、役職会を中心に経費削減を行う	対前年度10%削減	説明会実施、予算よりは減少したが、教育研究経費は前年度より増額 全体では前年比105.4% (減価償却費を除く)	削減のための情報共有・削減の提案を継続して実施

⑦組織・運営体制

項目		中期目標		2023年目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2023年度計画	詳細	目標		
1	大学評価による恒常的な教育の質向上の推進	内部質保証システム及び全学的な情報の利活用の整備	2026年度からも大学基準協会から適合評価を受けることができるよう進めていく	必要な改善・改革の促進	・大学評価委員による中間適合監査を実施、要改善項目を確認し改善案と改善スケジュールを策定する ・上記の「①教育-1.教育の質的保証の充実」、「⑥財務-1～3.帰属収支改善」の各項目を参照	中間監査実施および報告・対策取りまとめ	中間監査の実施、および自己点検評価報告書を作成し配布した	今年度の認証評価に向けて諸活動の改善を行う
2	意思決定プロセスの見直し	意思決定プロセスの効率化	押印の省略や電子決裁導入の検討	電子決裁システムの調査、導入案の作成	電子化を行う上での、申請書類の見直しと業務整理、費用対効果に見合うシステムの選定	2023年度中に予算を見積り、2024年度導入	・給与明細書をWEB化し経費削減と事務効率化に繋がった ・業務効率化・情報共有を優先し業務アプリ作成システム導入検討・予算化を行った	新規導入の業務アプリ作成システムで、決裁関連のシステムが作成出来ないかを検討
3	自然災害・健康被害の危機管理	自然災害・健康被害に関する対策の充実	被害を最小限に抑え、教育機関としての事業が継続できるよう、自然災害・健康被害の対策の充実を図る	①災害時対応マニュアルの見直し（新型コロナウイルスの健康被害を含む） ②防災用備蓄品等の見直し ③学外機関・団体との協力体制の構築	・防災用備蓄品在庫の確認と必要数の確認 ・高野町と防災計画に関する打ち合わせの実施 ・共同での避難訓練実施の検討	年2回の打ち合わせおよび年1回（10月）の備蓄品の確認の実施	高野町消防主催の避難誘導訓練に職員5名で参加した	・高野町と防災に関する打ち合わせの実施 ・防災備蓄品在庫の確認
4	事務組織の効率化	事務組織の課題及び整理	各拠点での人的資源の有効活用と事務組織効率化、全体の効率性を図る	①事務組織の課題の洗い直しと再編業務の見直し ②人事配置・業務効率化・業務質向上等の人事政策の検討・見直し	・現状の問題点の洗い出しと事務組織効率化に向けた検討・法人本部とのすり合わせ ・定年退職等を見据えての中長期の人事計画の見直し（配置転換を含む）	-	2023年4月1日付で、各部署が効率的に機能するよう、人員配置を検討しキャンパス間の異動を伴う、大幅な人事異動を行った	法人本部主導で10年先を見据えた人事計画の策定

3. 高野山高等学校の事業報告

①高校経営

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
高野山学園との連携	高野山学園との 連携強化	継続事業	理事会・評議員会での運営状況報告 (5/25,10/5,11/16,2/16)	理事会・評議員会での運営状況報告
		継続事業	ドワンゴ学園との協働について模索(4/17 見尾田氏来校)	ドワンゴ学園との協働について模索
		継続事業	ドワンゴ学園との協働について模索(8/31 役員4名来校)	ドワンゴ学園との協働について模索
		単年度事業	清泉寮(女子寮)改装完成式典(4/11)	
宗団との連携	高野山真言宗との連携 強化	継続事業	新入生の本山参拝(4/10)	新入生の本山参拝予定(4/8)
		継続事業	全国奉詠舞大会への参加(ご詠歌並びに宗教舞踊) (4/11)	全国奉詠舞大会への参加予定(ご詠歌並びに宗教舞踊) (4/11)
		継続事業	萬民平等差別戒名追善法会 宗教科生参列(5/6)	萬民平等差別戒名追善法会 宗教科生参列予定(5/7)
		単年度事業	GoGoMyLife活動への参加(5/26 音楽法会にて奉納)	
		継続事業	毎月21日 大師教会での定例布教拝聴(土日や長期休暇期間を除く)	毎月21日 大師教会での定例布教拝聴予定(土日や長期休暇期間を除く)
		継続事業	宗教科生法会の衣体借用(音楽法会・降誕会・追悼法会・奥之院法会)	宗教科生法会の衣体借用予定(音楽法会・降誕会・追悼法会・奥之院法会)
		継続事業	結縁灌頂(春・秋)宗教科生出仕	結縁灌頂(春・秋)宗教科生出仕予定
		継続事業	受戒に宗教科生7名入壇(6/6~6/8)	受戒に宗教科生5名入壇予定(6/3~6/5)

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
宗団との連携	高野山真言宗との連携強化	継続事業	降誕会に宗教科生出仕(6/15)	降誕会に宗教科生出仕予定(6/15)
		継続事業	高野山東京別院において学校長による法話と共に学校紹介(6/21)	高野山東京別院において学校長による法話と共に学校紹介
		単年度事業	弘法大師御誕生1250年記念行事に出仕(9週間 生徒のべ200名が出仕)	
		単年度事業	弘法大師御誕生1250年記念行事に宗教科生 紙芝居披露	
		単年度事業	弘法大師御誕生1250年記念行事 第6地域伝道団に女子生徒出仕(千早)	
		継続事業	本山主催こぼんさん寺子屋修行に宗教科生出仕(7/25)	本山主催こぼんさん寺子屋修行に宗教科生出仕予定(7/下旬)
		単年度事業	ロサンゼルス別院110周年記念行事に宗教科生13名参加(10/14~10/18)	
		継続事業	金剛峯寺境内案内人試験 宗教科7名受験 全員合格(11/30受験)	金剛峯寺境内案内人試験 宗教科5名受験予定
		継続事業	奥之院での宗教科生7名の布教発表(1/21)	奥之院での宗教科生5名の布教発表予定(1/21)
		継続事業	寒行托鉢の宗教科生10名の出仕(1/26)	寒行托鉢の宗教科生の出仕予定(1/下旬)
		継続事業	奥之院での宗教科生によるえひめ丸慰霊法会(2/9)	奥之院での宗教科生によるえひめ丸慰霊法会予定(2/9)
		継続事業	常楽会の宗教科生出仕と普通科生金剛峯寺前庭での読経(2/15)	常楽会の宗教科生出仕と普通科生金剛峯寺前庭での読経予定(2/15)
		継続事業	SDG's活動としてハート・オブ・ゴールドを通じてカンボジア学生に寄付(通年)	本校生徒会主導でSDG's活動としてアルミ缶を集めてカンボジア学生に寄付(通年)

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
大学との連携	教員出講/教育実習生 受入イベント共催	継続事業	教員の出講(橋本校長→布教、富田教諭→宗教科教育法Ⅳ)	教員の出講予定(橋本校長→布教、富田教諭→宗教科教育法Ⅳ)
		継続事業	大学教員による本校への出校(スクールカウンセラー阪岡先生毎週火曜日)	大学教員による本校への出校予定(スクールカウンセラー毎週火曜日)
		継続事業	大学教員による本校への出校(本校特進コースに対する鈴木教授の小論文指導)	大学教員による本校への出校予定(本校特進コースに対する鈴木教授の小論文指導)
		継続事業	高野山学園集団得度の共催(5/24 大学当番)	高野山学園集団得度の共催予定(5/27 高校当番)
		継続事業	教育実習生の受け入れ(5月下旬～6月初旬 国語科1名、宗教科1名)	教育実習生の受け入れ予定(5月20日～6月1日)
		単年度事業	音楽法会の共催(5/26 弘法大師御誕生1250年記念として)	
		単年度事業	佐々井秀嶺師講演に宗教科生参加(6/20)	
		継続事業	宗教科生の僧堂研修による加行道場借用(7/11～7/15)	宗教科生の僧堂研修による加行道場借用(7/9～7/13)
		単年度事業	大学教員(佐々木聡氏)による本校教職員への研修(7/24)	
		継続事業	宗教科希望生の真別処加行入壇(後期1名、前期2名 全員成満)(8/21～10/19)	宗教科希望生の真別処加行入壇予定(後期2名)(8/下旬～10/中旬)
		継続事業	本校教育講演会実施のため難波サテライト借用(9/5)	本校教育講演会実施のため難波サテライト借用予定(9/初旬)
		継続事業	高野山大学密教学科併設校入試に本校生徒5名受験(11/18)	高野山大学併設校入試に本校生徒若干名受験予定

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
高野町との連携	山内行事及び地方祭への参画	単年度事業	高野町交番による生徒への自転車ヘルメット着用の啓発講演	
		継続事業	税の作文出展(高野町長賞、粉河税務署長賞 受賞)	税の作文出展予定
		継続事業	青葉祭に出仕(6/15)	青葉祭に出仕予定(6/9)
		単年度事業	高野山中学非常勤教員の本校への出校(人事交流)打診	
		継続事業	高野町青少年総合対策本部役員会に参加(7/5)	高野町青少年総合対策本部役員会に参加予定
		継続事業	明神社大祭 全校生徒参加(10/16)	明神社大祭 全校生徒参加予定(10/16)
		継続事業	本校マラソン大会実施にあたり警察から協力(11/22)	本校マラソン大会実施にあたり警察から協力要請の予定(11/15)
		継続事業	高野町教育委員会 ジュニア駅伝 指導者派遣(福島太郎寮監)	高野町教育委員会 ジュニア駅伝 指導者派遣予定(福島太郎寮監)
学外組織との連携	教育活動/文化活動 その他	継続事業	上海朝陽義塾生への本校募集プレゼン(zoom 4/12)	上海朝陽義塾生への本校募集プレゼン予定(zoom 4/中旬)
		継続事業	リクルート スタディサプリ使用について(4/12)	リクルート スタディサプリ使用説明予定(4/初旬)
		単年度事業	慈尊院への遠足(4/28)	USJへの遠足予定(4/25)
		継続事業	家田荘子先生 特別授業(5月・9月・1月)	家田荘子先生 特別授業実施予定(5月・9月・1月)
		単年度事業	近大新宮高校 来校(5/16)	
		継続事業	和歌山県国際課 アジアオセアニアフォーラムに宗教科生参加(7/30)	和歌山県国際課 アジアオセアニアフォーラムに宗教科生参加予定(7/下旬)
		継続事業	和歌山大学教育学部附属小学校生徒に対して宗教科生の絵写経指導(6/23)	和歌山大学教育学部附属小学校生徒に対して宗教科生の絵写経指導予定(6/下旬)
		継続事業	高野山真言宗播磨支所下青年教師会より宗教科生への紙芝居レクリエーション依頼	高野山真言宗播磨支所下青年教師会より宗教科生への紙芝居レクリエーション実施予定

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
学外組織との連携	教育活動/文化活動 その他	継続事業	和歌山県私学研修会の実施(本年は高野山高校が会場 8/1)	和歌山県私学研修会の参加予定(本年は開智高校が会場 8/初旬)
		継続事業	真言宗学園協議会 松井全日制教頭・富田通信制教頭参加(8/3)	真言宗学園協議会 参加予定(8/初旬)
		継続事業	高野山真言宗 大阪支所下 釋迦院への宗教行道部4名夏期助法(8/12~8/16)	高野山真言宗 大阪支所下 釋迦院への宗教行道部夏期助法予定(8/12~8/16)
		単年度事業	和歌山県国際課 世界和歌山県人会で宗教科生奥之院案内(10/6)	
		単年度事業	羽曳野市・藤井寺市保護司会研修を本校で開催(橋本校長講師)(10/25)	
		継続事業	四国遍路研修 宗教科実施(11/1~11/5)	四国遍路研修 宗教科実施予定(10/29~11/2)
		継続事業	日本弁論連盟主催 全国青年弁論大会(静岡大会)に和歌山県代表出場(11/12)	日本弁論連盟主催 全国青年弁論大会(石川大会)に和歌山県代表出場予定(11/9)
		継続事業	文化時報社主催 第4回作文コンクール出品 宗教科3年生齋藤翔成 奨励賞受賞(1/15)	文化時報社主催 第5回作文コンクール出品予定
		継続事業	種智院大学での通信制スクーリング実施(12/19~12/22)	種智院大学での通信制スクーリング実施予定(12/17~12/21)
		継続事業	和歌山県高文連弁論部会主催 和歌山県弁論交流会実施(12/14)	和歌山県高文連弁論部会主催 和歌山県弁論交流会実施予定(12/中旬)
		継続事業	高野山真言宗 石川支所下 俱利伽羅不動寺への宗教行道部3名冬期助法(12/26~1/4)	高野山真言宗 石川支所下 俱利伽羅不動寺への宗教行道部冬期助法予定(12/26~1/5)
		単年度事業	岸和田自然資料館主催 榎本佳樹生誕150年記念行事に宗教科生・特別進学コース生出仕(2/23)	
		単年度事業	和歌山県国際課 マレーシア学生交流(2/19)	
		継続事業	高野の火まつり 宗教科生10名参加(3/3)	高野の火まつり 宗教科生参加予定(3/2)

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
内部の拡充	組織の活性化	継続事業	月例 教職員全体会議実施	月例 教職員全体会議実施
		継続事業	教職員連絡ツール「ラインワークス」の活用	教職員連絡ツール「ラインワークス」の活用
	人員配置の適正化	継続事業	校務分掌(人事)の再点検	校務分掌(人事)の再点検
		継続事業	各種委員会での行事实施の検討・準備・運営・振返り	各種委員会での行事实施の検討・準備・運営・振返り
	職場環境の整備	継続事業	教諭・常勤講師の働き方改革による日中休みの運用(4月～7月)	教諭・常勤講師の働き方改革による日中休みの運用(4月～7月)
		継続事業	休日出勤に対して代休取得	休日出勤に対して代休取得
		継続事業	産休などの制度確認	産休などの制度確認
		継続事業	教職員に対して産業医の活用	教職員に対して産業医の活用
	生徒支援	継続事業	Gmailを保護者に振り分け、保護者と学校との連絡に活用	Gmailを保護者に振り分け、保護者と学校との連絡に活用
		継続事業	外部委託によるスクールバス運用	外部委託によるスクールバス運用
		継続事業	外部委託による高野山食堂(西岡食堂)運用	外部委託による高野山食堂(西岡食堂)運用

②教育活動

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
全日制	ICTの活用	継続事業	リクルート社「スタディサプリ」を宿題に運用し、生徒の学習定着を目指す	リクルート社「スタディサプリ」の宿題運用で、生徒の学習定着を強化
		継続事業	リクルート社「スタディサプリ」による模試の実施および課題連動配信を実施	リクルート社「スタディサプリ」による模試の実施および課題連動配信を実施予定
		継続事業	ロイロノート社授業運営システム「ロイロノート」運用	ロイロノート社授業運営システム「ロイロノート」運用継続
		継続事業	生徒全員へのノートPC貸与	生徒全員へのノートPC貸与継続(卒業生39台回収、新1年生用に追加購入の可能性あり)
		継続事業	教室にモニター設置(5ヶ所)	教室のモニター保全管理
	環境保全	継続事業	授業環境保全の強化	授業環境保全の強化
	生活指導	継続事業	生活指導部、教務部によるアンケートでの生徒状況把握	生活指導部、教務部によるアンケートでの生徒状況把握
	授業内容の充実	継続事業	各教員の授業改善、教科指導の向上	各教員の授業改善、教科指導の向上
		継続事業	生徒の学力向上のために授業工夫	生徒の学力向
		継続事業	特別進学コースの3年生再編成	特別進学コースの3学年の教育確立
		継続事業	習熟度クラスに上位学習の「応用」クラス開設	習熟度クラスに上位学習の「応用」クラスの継続
		継続事業	特進コースの「学習ルーム設置」と学習環境の確保	特進コースの「学習ルーム」での学習環境の確保
		継続事業	特進コースの特別講師による高度な授業内容の実施	特進コースの特別講師による高度な授業内容の実施

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
全日制	授業内容の充実	継続事業	特進コース、宗教科Ⅱ類その他希望生徒への河合塾模試の定期実施	特進コース、宗教科Ⅱ類その他希望生徒への河合塾模試の定期実施
		継続事業	自己探求コースの大原専門学校講師による公務員対策授業実施	自己探求コースの大原専門学校講師による公務員対策授業実施
		継続事業	自己探求コースによる職業体験授業実施	自己探求コースによる職業体験授業実施
		継続事業	吹奏楽コースの特別講師による演奏授業実施	吹奏楽コースの特別講師による演奏授業実施
	スポーツコースの活動強化	継続事業	スポーツコース(野球・女子ハンドボール)の本校や遠征による対外試合実施	スポーツコース(野球・女子ハンドボール)の本校や遠征による対外試合実施
		継続事業	強化クラブ(野球部・女子ハンドボール部・駅伝部)の強化	強化クラブ(野球部・女子ハンドボール部・駅伝部)の強化
	国際化の推進	継続事業	国際教育の充実(ロサンゼルスへの3週間短期留学)	国際教育の充実(ロサンゼルスへの3週間短期留学)
		継続事業	国際教育の充実(ロサンゼルスからの短期留学受入れ)	国際教育の充実(ロサンゼルスからの短期留学受入れ)
		継続事業	国際教育の充実(中国上海朝陽義塾からの留学生受入れ)	国際教育の充実(中国上海朝陽義塾からの留学生受入れ)
		継続事業	国際教育の充実(台湾・ロサンゼルスなどへの海外研修の実施)	国際教育の充実(台湾・ロサンゼルスなどへの海外研修の実施)
	進路指導の充実	継続事業	転編入生受入れの強化(本年度9名受入れ、中国留学生6名受入れ 都合15名)	転編入生受入れの強化(本年度10名目標、中国留学生8名目標 都合18名年度途中増加)
		継続事業	進路指導の強化(進路ガイダンスの実施・新規指定校の獲得)	進路指導の強化(進路ガイダンスの実施・新規指定校の獲得)
		継続事業	併設校高野山大学への進学斡旋	併設校高野山大学への進学斡旋
	施設整備	継続事業	男子寮(飛泉寮)、女子寮(清泉寮)での寮教育のソフト拡充	男子寮(飛泉寮)、女子寮(清泉寮)での寮教育のソフト拡充
		継続事業	保健室の整備	保健室の整備

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
通信制	内外への働きかけ	継続事業	サポート校との教育連携強化	サポート校との教育連携強化
		継続事業	「ラインビジネス」を使用した生徒・保護者と学校との連絡強化	「ラインビジネス」を使用した生徒・保護者と学校との連絡強化
	特別活動の充実	継続事業	高野山での特別活動の充実	高野山での特別活動の充実
		継続事業	京都での特別活動の充実	京都での特別活動の充実
	スクーリングの充実	本年終了事業	夏期スクーリングの本校での実施	夏期スクーリングを高野山大学で実施
		継続事業	冬期スクーリングの種智院大学での実施	冬期スクーリングの種智院大学で実施
		継続事業	高野山高校特有の学校設置教科の充実	高野山高校特有の学校設置教科の充実
	転編入生へのアプローチ	継続事業	新規入学および転編入生の増加	新規入学および転編入生の増加
	進路指導の充実	継続事業	進路指導として高野山大学・種智院大学の学校案内実施	進路指導として高野山大学・種智院大学の学校案内実施
		継続事業	希望者への受験指導の実施	希望者への受験指導の実施

③生徒募集

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
全日制生徒募集 通信制生徒募集 留学生募集	ツールの早期作成 受験制度の柔軟対応 推薦入試選抜枠確保	継続事業	パンフレットの早期作成(次年度のパンフレットを前年度末に準備)	パンフレットの早期作成(次年度のパンフレットを前年度末に準備)
		継続事業	在宅型入試(全国唯一)の実施(1/26~2/9)	在宅型入試(全国唯一)の継続実施
		継続事業	推薦入試(本年30名出願)・自己推薦入試(本年5名出願)の実施	推薦入試(30名出願目標)・自己推薦入試(10名出願目標)の実施
		継続事業	転編入用パンフレット作成(5月 3000部)	転編入用パンフレット作成
		継続事業	配布物としてしおりを作成(3000部)	配布物としてしおりを作成(1000部)
		継続事業	本校の紹介動画撮影(和歌山テレビ) 8月以降放映	本校の紹介動画撮影(和歌山テレビ)
		継続事業	寮のアピール(チラシ作成)	寮のアピール
	近隣中学校・学習塾へのアプローチ	継続事業	伊都橋本地区中学校長対象説明会実施(7月)	伊都橋本地区中学校長対象説明会実施
		継続事業	和歌山市海南市岩出市紀の川市中学校進路指導部対象私立高校説明会参加(9/26)	和歌山市海南市岩出市紀の川市中学校進路指導部対象私立高校説明会参加
		継続事業	教育講演会実施による塾へのアピール(9/5難波サテライト、9/12和歌山ビッグ愛)	教育講演会実施による塾へのアピール(難波サテライト、和歌山ビッグ愛)
		継続事業	和歌山県・大阪府・奈良県・兵庫県への中学校回り(6月~12月)	和歌山県・大阪府・奈良県・兵庫県への中学校回り
	寺院へのアプローチ	継続事業	宗内寺院へのパンフレット・募集要項・ポスターの送付(7月頃)	宗内寺院へのパンフレット・募集要項・ポスターの送付
		継続事業	宗内支所役員会などでの学校説明	宗内支所役員会などでの学校説明
		継続事業	真言宗系機関誌に本校の記事掲載	真言宗系機関誌に本校の記事掲載

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
全日制生徒募集 通信制生徒募集 留学生募集	説明会への参画	継続事業	「寮のある学校」学校説明会の参加（神戸・名古屋・横浜・東京）（11月）	「寮のある学校」学校説明会の参加（神戸・名古屋・横浜・東京）
		継続事業	徳島県での駅伝部の生徒募集	徳島県での駅伝部の生徒募集
		継続事業	体験スクール・体験入寮実施（年3回）	体験スクール・体験入寮 継続実施（年3回）
		継続事業	随時の学校案内・寮見学実施	随時の学校案内・寮見学実施
		継続事業	東京私塾協同組合 協賛校に加盟 学校説明会などに参加	東京私塾協同組合 協賛校に加盟 学校説明会などに参加
		継続事業	埼玉私塾協同組合 協賛校に加盟 学校説明会などに参加	埼玉私塾協同組合 協賛校に加盟 学校説明会などに参加
		継続事業	海外帰国子女財団 組合校に加盟 学校説明会などに参加	海外帰国子女財団 組合校に加盟 学校説明会などに参加
		継続事業	未来教育支援協会（中国人留学生関係） 会員に加盟 学校説明会などに参加	未来教育支援協会（中国人留学生関係） 会員に加盟 学校説明会などに参加
	HP/SNSの活用	継続事業	HPIによる学校紹介	HPIによる学校紹介
		継続事業	HPからのパンフレット請求などへの対応	HPからのパンフレット請求などへの対応
		継続事業	SNS（旧ツイッター・インスタグラム他）による本校の情報発信	SNS（旧ツイッター・インスタグラム他）による本校の情報公開
	留学生の受入れ	継続事業	中国上海朝陽義塾との連携により留学生の入学（9月転入）	中国上海朝陽義塾との連携により留学生の入学

④施設・設備の整備事業

項目内容	目標	事業区分	2023年の活動報告	2024年度以降の取り組み
建物・備品等固定資産 の新規取得と除却	新規取得固定資産 老朽化固定資産 固定費の節減 等の管理	継続事業	各所の修繕	各所の修繕
		継続事業	学校・寮内での光熱費の検証、節約	学校・寮内での光熱費の検証、節約
		継続事業	校舎棟廊下滑り止め設置の検討	校舎棟廊下滑り止め設置
		新規事業	年度末などに業者による清掃・修繕	年度末などに業者による清掃・修繕
		新規事業	介護実習室の保健室の転用	介護実習室の保健室の転用
		新規事業	旧保健室の女子更衣室への転用	旧保健室の応接室への転用
		新規事業	生徒ホールの施設整備	体育館下食堂の生徒ホールとしての整備

4. 高野町立高野山こども園の事業報告

項目	中期目標		2023年度			結果	来期以降の取組
	目標	目標の説明	計画	詳細	目標		
教育・保育 の充実	1号認定園児対応	預り時間の短い1号認定園児の受け入れに当たり、教育内容のさらなる充実が必要となる	教育内容のブラッシュアップ	既存・新規の委託事業者に相談し、必要に応じて契約の見直しと追加を行う	2件以上	1号認定児なし。 外部講師を招き、えいご、リズム、たいそう指導の実施した。	今後も教育内容を充実し、保護者に周知するとともに、保育を必要とする2・3号児との違いを保護者に理解してもらおう。反面、就労する保護者が増えている状況で1号認定児の獲得が課題である。
	教職員の啓発・スキルアップ	園児・教職員・保護者それぞれにとって良いこども園をつくるために、教職員の意識改革・スキルアップを促す	研修の充実	随時フォローアップ研修に参加し報告書を提出、合わせて全員に子どもの虐待・体罰防止の研修を実施する	全教職員 2回以上	県主催の合同研修、キャリアアップ研修に参加。その後、報告書を作成し、提出するとともに職員会議で伝達し合った。 県指導主事、幼児教育アドバイザーを迎え、支援訪問を実施。こども園の保育についての指導やアドバイスを乞う。 園内研修(年6回)公開保育、保育士間で意見交換や情報共有を行った。 臨床心理士による職員研修を実施した。内容「今日の児童生徒の不登校・ひきこもりと幼児教育の重要性」(1/18.19)	スキルアップのため積極的に研修に参加する。 幼児教育アドバイザーや課的教育支援チームを招き、園内研修の機会を持つとともに職員の資質向上に努める。
			現場監査の計画策定・実施	教職員・法人本部と協力し監査計画を策定、複数回実施し理事会および保護者会にて報告する	年2回	園長、園長代理を中心に法人本部と連携を取り、改善事項に基づき取り組んできた。その結果をアンケートや保護者会を通じて保護者に報告する。 保護者意見交換会を年3回実施し、保護者と職員の信頼関係を築くよう努めてきた。	今後も、保護者との意見交換会等を開催し、保護者と信頼関係を築いていく。 保護者とともにより良いこども園をめざしていく。

項目	中期目標		2023年度			結果	来期以降の取組
	目標	目標の説明	計画	詳細	目標		
教育・保育の充実	教員・保育士の安定的確保	町の移住・子育て支援施策と連動し入園希望者も増えているため、対応できるよう保育士を確保する	募集広報実施	高野町と協力してハローワークに働き掛けるほか、掲載媒体の見直しを行う	1名以上採用	6年度に向けて4名採用	正規職員、パート職員募集中
			資格取得支援	資格取得支援制度を見直し、合格後の報奨金制度の設定	1名合格		
			教職員の長期就業支援	園内外の相談体制を構築、教職員同士でのコミュニケーションの円滑化を目指す	退職1名以下	事務職員1名、保育教諭1名、パート職員3名が退職	働きやすい環境、人間関係の構築に努める。
保護者・地域との協力体制確立	保護者への報告・サービスの充実	顔の見える園となることで大切な地域の方々と安心・信頼のある関係を維持構築する	保護者会の保育士積極参加	現在随時開催となっている保護者会に全保育士が積極的に参加する	全保育士2回以上参加	全職員が年3回の保育意見交換会と年2回の保護者会総会に参加する。	保護者とより信頼関係を築くため、保護者会には今後も積極的に参加する。
			危機管理マニュアル・苦情対応マニュアル等の各種マニュアルの見直し・活用	マニュアルの内容を教職員に周知し、まず初動を全員で共有する。記録書を整備、必要に応じて第三者委員への報告を記録書に基づいて行うことを徹底する	全件対応完了	苦情対応マニュアルを意識しながら、子どもや保護者に寄り添い、安心・信頼のある関係を築いてきた。また、今年度は新たに業務継続計画を作成し、職員に周知した。	教職員に周知し、保護者・地域との信頼のある関係を維持するよう努めていく。
	高野町との連携	委託者である高野町と協力することで、地域の教育・福祉の向上に努める	子育て世代包括支援センターとの連携運営	センターとともに課題を洗い出し、改善策を検討、実行する	年2回以上	支援員と園長代理や主任と話し合う機会をもち、支援センターの運営や利用内容について話し合った。	子育て支援センターの啓発を行い、地域の人が利用しやすい環境をつくる。

項目	中期目標		2023年度			結果	来期以降の取組
	目標	目標の説明	計画	詳細	目標		
施設・設備の整備	高野町学びの拠点整備事業への対応	高野町学びの拠点整備事業として、小中学校・こども園・高野町役場の移転が計画されているため、より良い教育・保育の環境をつくるために尽力する	新園舎建設・移転	新園舎完成後必要な備品類の購入・整備を検討する	随時	子どもや職員にとって過ごしやすい環境づくりを努め、不備なところは担当課や担当業者に相談し、改善を図った。	6年度は小中学校が移転してくるため、より一層交流や連携を図る。
子育て支援センター運営	保護者の就労・疾患等により、一時的又は緊急に保育を必要とする児童への対応。子育て家庭の交流の場や情報の提供。	子育て支援業務(相談・一時預かり)を通して、こども園への入園希望者増加を目指す	体制の整備・相談・実施・改善	預かり事業を開始するに当たり、今以上に報告・相談・改善を実施、運営の流れを確立する。預かり事業を通して、保護者が安心して子育てできる環境を整備・充実する。	随時	相談や一時預かり保育を行い、保護者が安心して利用できる子育て支援業務を行った。	保護者が安心して利用できるよう、今後も子育て家庭の交流の場や情報の提供を行っていく。